

科目ナンバリング	科目名	教員名
	表現文化論Ⅰ	森 瑞枝

開講詳細

開講キャンパス	開講時期	曜日時限	単位数
渋谷	2025年度集中、2026年度集中	集中講義	2単位

講義授業

授業の実施形態	対面型授業
授業のテーマ	言語と身体を以って表現文化を探究する、学芸としての謡曲。藝能的思考の実験。
授業の内容	<p>能の詞章に付された節は、それ自体が解釈であり、作品の可能性を開く扉である。謡曲の実演を通して作品に主体的にかかることにより、新たな視座や方法を発見する。思考と身体感覚とが表裏一体に充実してゆく体験とともに、それを他者と共に育む場を実現する。</p> <p>今回のセッションでは、謡曲『花月』によって、私たちの「日本の文化」イメージに謡曲がもたらした作用を検分する。金春流現行版の謡本（台本・楽譜）の詞章と節を吟味し、実際に謡（うた）うことを通して、能の詩的言語と身体表現を体験し、曲の構想、それらの土台となっている思想や宗教意識に迫る。</p> <p>「花月」は芝居らしい曲です。室町時代の言葉遊びや歌謡を散りばめて、役柄をつかみやすく、楽しめる曲です。</p>
到達目標	<p>【知識・技能A2】 能／謡曲『花月』の構造と内容、謡の基本的な事柄を説明し例示できる。</p> <p>【思考・判断・表現B2・B3】 詩的言語をとらえることができる。自他の実演を相対的に評価できる。</p> <p>【主体性と共働・態度C1・2・3・4】 能の総合芸術たる所以を具体的に知ることにより、物事に対して多角的にアプローチする感覚を身につけるとともに、芸術上の核心を洞察するセンスを磨く。</p> <p>自分のパフォーマンスを通して、他者の前に自己を開示しようと努め、他者のパフォーマンスから積極的に学ぼうと努める。</p>

授業計画

第1回	<p>一日目午前①： ガイダンス 謡本について。謡本の受容の歴史。</p> <p>⇒能の入門書、ガイドブックの類に目を通しておく。</p>
第2回	<p>第2回</p> <p>一日目午前②：能と中世日本の宗教について。 能『花月』の概説。謡本『花月』の素読。 素謡。 謡の発声、節ハカセ（記号）解説。 授業内小リポート</p>
第3回	<p>第3回</p> <p>一日目午後①： 素謡：発声、節の基本を辿ってゆくワークショップ</p>
第4回	<p>第4回</p> <p>一日目午後②： 素謡。 授業内小リポート</p> <p>⇒配布資料の復習。 教科書＝謡本『花月』を声を出して読みなおす。</p>
第5回	<p>第5回</p> <p>二日目午前 ①： 素謡と詞章の読み解き・分析。 引用されている詩歌などを検討しつつ、曲のイメージを捉えてゆく。</p>
第6回	<p>第6回</p> <p>二日目午前②： 素謡と詞章の読み解き・分析。 授業内小リポート</p>
第7回	<p>第7回</p> <p>二日目午後①： 素謡と詞章の読み解き・分析 各自の課題を絞ってゆく。</p>
第8回	<p>二日目午後②： 素謡。 詞章の読み解き・分析と能『花月』の構想。</p>

	<p>課題仮決定。 授業内リポート</p> <p>⇒自分なりに素謡してみる。 配布資料を読む。</p>
第9回	<p>第9回 三日目午前①： 能『花月』記録映像の鑑賞。</p>
第10回	<p>第10回 三日目午前②： ディスカション、独吟、連吟課題の選定 授業内リポート</p>
第11回	<p>三日目午後①： 課題部分の稽古</p>
第12回	<p>三日目午後②： 課題部分の稽古 授業内リポート</p>
第13回	<p>四日目午前① 各自の実技課題(独吟)の披露と合評 ⇒配布資料の復習。 曲の構想を練り、自分なりの表現を工夫、稽古する。</p>
第14回	<p>四日目：午前② 連吟『花月』(全員)</p>
第15回	課題リポートのためのディスカション
授業計画の説明	<p>段階を踏んでゆくことで、詞章の探究が作品の魅力を引き出し、多彩な享受をもたらすようにプログラムしている。 講義と実技は密接不可分である。講義に積極的に臨めれば、実技はたとえ難しくても時間を忘れて面白くなる。 準備時間は融通無限。</p>
授業時間外の学習方法	<p>この授業では、謡や仕舞を要領よくやってみる、齧ってみるためのものではありません。4日間、謡本『花月』を繰り返し聞き、謡う。自習だとなんかうまくいかない感じ、この違和感が大切です。詞章の吟味がなによりも大切です。何がどうしてつかえるのか？稽古とは、声に出て言葉を吟味すること。すると、じんわりと謡が身体に浸みてゆきます。そしてそれは、自分自身の声や身体を意識することに他なりません。</p> <p>謡曲はさまざまな文化資源の宝庫です。この授業では日頃から色々な芸術にふれ、世の中を観察し、感覚を研ぎ澄ましていることが学習です。謡曲だけでなく、色々なことが面白くなります。</p>
受講に関するアドバイス	<p>声を出しやすい、動きやすい服装で。 頭脳と身体は連動している。朝晩休み時間、身体のストレッチは効果大。 本来なら能は面と装束をつけているのだと思えば（実際はつけないが）、外見は気にならない。とにかく、恥ずかしがらず、声を出し、試す。</p>

成績評価の方法・基準			
評価方法	割合	評価基準	
平常点	100%	授業内リポート、発言、実技に対する態度をあわせ、総合的に評価する。(70%) 課題リポート(30%)	

注意事項	この講義では、講義と実技が一体に展開します。実技の出来不出来、いわゆる上手・下手を評価するものではない。作品のテーマを探求し、まっすぐ役になろうとする意欲が大切。それによって各人が身体もろとも思索を深めてゆく過程を重視します。意欲は表現にあらわれます。
実務経験に関する記載	シテ方金春流の能楽師として演能している。

教科書・参考文献等	
教科書	
『花月』(金春流普及版)：(公社)金春円満井会出版部 本(教科書)は必須。徹底的に使って、この楽譜・台本を自分のモノにしてゆく。(一般書店では扱っていないので事前に生協へ求めておくこと。)	

参考文献

ISBN番号	書名	著者名	出版社	備考	K-aiser
	金春の能 上 中世を汲む	金春安明	新宿書房		著書検索
	金春の能 中 近世を潤す	金春安明	クレオ		著書検索
	閑吟集・宗安小歌集	北川忠彦	新潮社	新潮古典集成	著書検索

参照文献コメント

能一般の入門書、概説書、曲目解説の書籍、Webはいろいろ沢山あるので、なにか見ておくこと。

参考になったウェブページ

社団法人能楽協会 <http://www.nohgaku.or.jp/>
the能ドットコム <https://www.the-noh.com/jp/sekai/index.html>